



事務局より報告をさせて頂きます。今年ばかり役員改選の時期に当たっており、また、板倉会長よりも健康状態が思わしくない、これ以上続けることは困難であるというお話がございまして、先日、幹事会において新役員を選出いたしました。

ただ今から新役員のお名前を読み上げさせて頂きます。なお、敬称は略させて頂きます。

会長・小林肇（旧制十九期生）、副会長・近藤誠（旧制十六期生）、副会長・太田勝治（新制十一期生）、副会長・菅原渉（新制二十一期生）、会計監査監事・村井克白（新制四期生）、事務局長・八柳昭義（新制八期生）、会報編集長・杉崎孝雄（新制八期生）、以上の方々を新役員として選出いたしました。皆さまのよりいっそうのご支援をよろしくお願いいたします。

会長辞任の挨拶

板倉 創造氏

初代会長は腰山巳代治さんがたいへん長い間、おやりになっておられました。私が副会長から



会長になったのが、明治、明治じゃない、昭和四九年だったか、五十年だったか忘れませんが、まあ、四、五年ぐらいい手伝いしようかと思っておいたら、いつのまにか十五年も会長をしております。その罰が当たって、去年病気になるって始めて総会を欠席いたしました。これはもういい加減に若い人に交替すべきである、という神様のお告げであると思ひまして、ぜひ引退させて頂きたいと思ひました。

振り返ってみますと、この十五年間は能代高校東京同窓会が非常に発展をした期間である、ということが言えるのではないだろうかと思ひます。総会の際には講演会を開くとか、幹事会を毎月、いえ、二カ月毎ですか、一回二十人程度の方が集まって懇親をやり、また、今後の同窓会についての意見を言う、というようなことで、同窓会のつながりが非常に緊密になりました。そして、本日は始めて今年卒業の皆さんが集まって頂きました。これも前々から新しい卒業生ともども会をやりたいたいのだなあ、と考えておりましたがなかなかできなかった。今年これが実現しまして、本当にうれしいと思ひます。同窓会というのは、もともと先輩・後輩みな力を合わせて、それぞれの心を豊かにするもので

なければならぬ。しかも、自分たちが習った先生を大事にしなければならぬ。そのような趣旨から、なんとか資金の工面をしながら、毎年二、三人の先生をご招待してきました。現在までおそらく三、四十人以上の先生において頂いたことになると思ひます。要するに、恩師・先輩・後輩それにPTAといったものが一堂に集まって盛り上げていく、それが本会の同窓会の姿であると思っております。今日まで、そのような方向へ皆さんの協力が頂けましたことを深く感謝いたします。

今日この胸の花をはずすことができまして、本当にホッとしております。どうも長い間いろいろありがとうございました。

司会：本日、会長をやめられたとは言つても、これからもまだまだ会の発展に寄与して頂かなければなりません。次に読み上げる方々には、今後とも顧問という形で会の役員としてご尽力を頂くことになりました。腰山巳代治（旧制一期）、板倉創造（旧制三期）、後藤典二（旧制四期）、この三名の皆さんにはこれから会のためにご尽力・ご意見を頂くため、役員として残って頂くことをお願いいたしました。



腰山巳代治氏



後藤 典二氏

会長就任の挨拶

小林 肇氏 旧制十九期



どうも皆さん今晚は。今日の会合のために、

お忙しい中をおいで頂きまして、誠にありがとうございます。ただ今板倉会長から、前会長と申しておきましようか、ご挨拶がありました通り、先頃から健康上の理由で交替を申し出られておりました。実は、この度の役員改選に当たりましては、あいにく私も出席できない状態でしたが、欠席裁判のうちに会長ということにされておったわけでございます。本日、板倉会長とお会いしましたら、とてもとても健康上という理由は合点がいかないほどお元氣の様子です。先ほど神馬会長さんからお話がありました通り、まだまだお元氣でございます。何はともあれ、本当にうれし限りでございます。

私は板倉会長とのコンビで、事務局をもたせて頂いて十五年になりました。その前は、この度顧問をお願いすることになりました後藤さんが、この会をずっと継続されてまいりました。そして、五一年でしたか、能代高校五十周年記念を終えたときでございます。能代高校のさらなる発展をどうするかという話になったときに、板倉前会長が後藤さんを引き継いで、この

会をいつそう盛り上げてきたわけでございます。本日は私も板倉会長と一緒に交替させて頂きました。急ぎよ私が板倉会長を引き継いで、この会の運営をしてまいることになりました。板倉会長は顧問として会に残って頂くわけですので、いろいろご指導を頂きながら、また、皆さまのご協力を頂いて、何とかそれなりにやってまいりたいと思っております。人望の厚い板倉会長と違いますが、足りない点は多々あると思えますが、できない者だからこそ、皆さまのご協力のしがいがあるのではないかとこの期待をもちまして、この会の運営につとめさせて頂きます。

板倉会長には本日に長い間ご苦労を重ねて頂きました。今後も益々ご健康に留意されましてわれわれにいろいろなアドバイスを頂きたいと思っております。同窓会の意義は先ほど前会長が申された通りでございます。われわれは利害関係を抜きにして、この会をどのように継続発展させていくか、会の目的は何か、どうやって今後もつとめと盛大にしていくか、考えるべきことは考え、実行すべきことは実行する。その意味で、今回始めて、今年の春母校を卒業して東京地区におられる方々に、この会に参加して頂きました。先輩として、同僚として皆さんの相談相手になったり、あるいは力になることがあればという気持ちでございます。決して先輩風を吹かせるような、堅苦しいものではありません。この会もどんどん若い皆さんの希望も入れて、新しい方向での運営を目指していきたいと思っております。ですから先輩に遠慮することなく、思い切った意見や提案はおおいに歓迎いたします。そのような新風が吹き込まれて始めて、従来の会員たちもまた一つ盛り上がり

を見せることになろうかと思えます。今日ここにお運びの皆さん、そして、あいにく都合がつかずご出席がかなわなかった皆さんに、重ねて今後よろしくとお願いいたします。

簡単ではございますが、これをもちまして就任の挨拶にさせて頂きたいと思えます。

なお、板倉会長の長年のご苦労に対して、ほんのささやかではございますが、この会から感謝の印として、記念品をさしあげたいと思えます。どうぞ皆さん、拍手をお願いいたします。板倉前会長、スママセンが前へどうぞ。



板倉前会長：いや、このような物を頂くのは生まれて始めてでございます。これはどうも驚きました。開けてみないと中味はわかりませんが、どうもありがとうございます。